

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	田中 満由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅰ	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は助産師国家試験の受験に必修の科目である。貴学の昨年の国家試験合格率から本年度は国家試験全員合格を目指し、他の助産関連の基礎となる科目なので、できるだけわかりやすく、資料の工夫を行いながら、授業を展開した。②私が非常勤で本年が初めての担当であり、学習の準備性については、不明であったため、授業開始後、質問しながら理解度を把握し、授業を進めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館・インターネット利用」、自由記述の意見など	①最終的成績は15名(1名退学のため)中、秀2、優11、良2であった。②「受講動機」は助産師国家試験受験資格取得のため、受講が必修であるため、該当しない。難を言えば、「学習到達度の自己評価」は3.5～3.8であった。「学習量の評価」は授業前・授業後・授業の課題以外の取り組みが不足している。また、「学習のための情報利用」、「図書館・インターネット利用」も不足しており、学生が、教員が提供する授業に頼り、受け身の姿勢であることが示唆された。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①計画で掲げたDP1～3は達成できた。行動目標に挙げた6項目も達成できた。DP、CP、カリキュラムマップにおける位置づけからみて、内容的に妥当である。また、国試出題基準などからも内容的に妥当である。②「受講動機」は助産師国家試験受験資格取得のため、受講が必修であるため、該当しない。「学習到達度の自己評価」は3.5～3.8であった。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価において、「評価基準の明確さ」、「学習の範囲や課題」、「説明が理解しやすさ」がそれぞれ平均3.8であったが、「授業中の学生の参加する機会」「質問の受付と答える機会」については平均3.4であった。学習量の評価については授業前も授業後もともに不足している。授業の課題以外の学習も不足している。学修のための情報利用や図書館の利用も不足している。本年は限られた時間内に国試等にも対応した形で授業を進めたが、次年度は課題以外の学習についても自発的に興味を持たせるかも念頭に授業を展開したい。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	ほぼ達成できた。次年度の課題は授業中、限られた時間にいかに学生の参加や質問の機会を確保するかである。さらに教員が提出した課題にとどまらず、学生が積極的に学習していくよう行動変容させるかが課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機をみると「必須科目である」100%、「関心のある内容である」6.7%であった。資格取得に必要な科目であることの認識は持っているが、専門職を志す者として意欲・関心をもって講義・演習に臨む姿勢が求められる。 ・技術演習や講義が始まる前に復習と知識の確認のため、母性看護学の課題学習を行った。演習では事前に演習内容を記した用紙を事前に配布し、自己学習をして臨むようにした。 ・知識・技術が実習でのケアの実施に結びついていないという課題があり、実習の場面がイメージができるよう演習内容に妊婦と助産師役、第三者の視点も含め体験(ロールプレイ)し、ケアに結びつけられるよう演習を工夫した。また演習後は、体験もしくは実施することで技術の習得を図ると共に、情報や観察したことをアセスメントし、レポートするようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		やや達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・最終的な成績の平均値は83.1点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達し、その内理想的レベルに達した者は86.6%はであった。 ・目標別にみると、知識・理解は81%、思考・判断は87.8%、技術・表現は72%、態度は79%の達成度であった。また、学生の到達度自己評価項目においても、平均値3.6～3.8(ほとんどの項目が3.8)であり、概ね肯定的な評価であった。DP別の成績を見ると、思考・判断に関する点数が最も高かった。判断するためにどのような知識や技術が必要であるかを把握し、根拠をふまえアセスメントする能力が必要であるが、事例を用いて演習することや演習後の課題提出、包括的に捉えられたと考える。 ・学習量の評価については「授業に参加するため」、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたかの回答で、0回と回答している学生はいなかった。また、図書館の利用に関しては、68.7%の学生が「図書、雑誌を利用した」と回答しており、学生の自由回答の中にも「図書館に通い参考書をみた」という意見があった。引き続き、学生が能動的に学習するよう工夫が必要であると考え。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須科目でもある。学習到達度の自己評価の項目では平均値3.6～3.8(ほとんどの項目が3.8)であり、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 DP別の成績評価をみると、知識・理解より思考・判断に関する達成度が高かった(両者ともに80%以上の達成度)。到達度自己評価も概ね肯定的な回答であった。今後も症例を用いて演習場面を工夫するなど知識・理解が思考・判断につながるよう計画すると共に、技術習得できるよう検討したい。 ③まとめ 以上より、内容に関しては妥当であると考え
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価に関して、復習を全くしなかった学生はいなかったが、「余裕がなかった」という意見や目標別評価の中で他の項目に比べ『技術・表現』に関する評価が低かった(72%)。事前学習や復習(練習)の時間の確保が必要であるが、他の教科との関連性も考慮し、振り返りの時間が持てるよう講義と演習の組み方の工夫が必要である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。授業成績や授業評価アンケートより概ね達成できていると言える。ただ、学生の自由回答の中には、「余裕がない」という意見があり、課題に関しては他の科目の授業の状況も加味し、復習する時間を確保することも検討する必要がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ(分娩期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳについては今年度より、学生が机上での学習をふまえて助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義内容を試みた。講義に関しては、ほぼ毎回事前課題を提示し講義内容の理解を促した。15回の講義の前半は主に分娩期の生理・産婦の変化・分娩経過・支援の方法について講義し、事例演習やDVD視聴を繰り返し行い知識の定着を図った。さらに、後半の技術演習では分娩介助や事例を用いた継続的な記録の書き方を経験できるよう計画し、より実践につながるように講義内容を組み立てて取り組んだ。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は85点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。さらに、半数以上の13名が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。 目的別にみると、知識理解に関しては70%、思考判断に関しては83%、態度および技法表現に関しては100%であった。 周産期を通じた知識をふまえて演習に取り組めたことや、DVDを視ながらリアルタイムに対象の状態を把握し記録をする作業は、自分自身の知識を再確認し課題への取り組みにつながったと考える。さらに、本科目が臨床実習にはおいてはかなりの重きを置く科目であることもあり、学生たちも不明な点は自己学習を行うなどして意欲的に取り組んでおり、そのような姿勢も目標達成につながったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は3点以上であった。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、毎回、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めているが、今年度は半数以上の学生が予習や復習を行っていた。 目標達成状況をふまえ、今年度修正した講義内容については次年度も同様の形式で実施して行きたいと考える。なお、引き続き学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮し、できるだけ負担のないよう配慮することは意識していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であったが、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、活用する教材や事例の内容などについては更なる工夫をしていきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳについては今年度より、学生が机上での学習をふまえて助産ケアに必要な援助技術を習得することを意図した講義内容新たに試みた。 講義に関しては、事前課題を提示し講義内容の理解を促した。机上の講義では産褥期の生理・褥婦の変化・産褥経過・支援方法について解説し、教科書を中心に進めた。さらに、技術演習では看護学科の技術演習に参加する機会をもうけたり、学生間で保健指導を実施することで、臨床実習につなげられることを意識して講義内容を組み立てて取り組んだ。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	やや達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。さらに、半数以上の9名が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。 目的別にみると、知識理解に関しては67%、思考判断に関しては77%、態度に関しては94%で、技能表現に関しては87%であった。知識理解に関しては机上講義をふまえて演習課題で理解を深められるよう意図していたが、他の課題との重複もあり不明点に取り組む時間の確保が難しかったものもあったと考える。 全体的には、周産期を通した知識をふまえて演習に取り組めたことや、看護学生の演習を通して保健指導の方法をイメージしたり、事例に対して保健指導案を作成し指導を実践したことは、臨床実習にむけた褥婦支援の理解および準備につながっていったと考える。さらに他の科目同様に本科目が臨床実習にはおいてはかなり重きを置く科目であることもあり、学生たちも計画的に自己学習を行うなどして意欲的に取り組んでおり、そのような姿勢も目標達成につながったと考える。					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義内容は必要である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は3.5点以上であった。また、DPにおいてもほぼ標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	短期間で集中的に行われる講義であり、学生が関心を持って意欲的に目標に向かって取り組めるよう、毎回、他科目との課題の調整や科目間の関連性を考慮して講義を進めているが、今年度は半数以上の学生が予習や復習を行っていた。 目標達成状況をふまえ、今年度修正した講義内容については次年度も同様の形式で実施して行きたいと考える。なお、引き続き学生個々の理解度を踏まえ、実習時期や講義内容も考慮し、できるだけ負担のないよう配慮することは意識していきたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価では、すべての項目において全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生ほぼ全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であるため、毎回学習時間の確保が課題であるため、学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、講義のなかでの学習時間の確保についての調整もさらに必要であると考え。 配布資料の不備に関しては活用の妨げにならないよう注意していきたい。また、購入した教科書以外の文献や参考書の活用については、多角的な視点を養うことを意図しており今後も利用していきたいと考える。しかし、解説に用いて終わるのではなく、その文献や参考書をその後の演習でも用いていけるよう、講義内容を工夫していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機をみると「必須科目である」100%であり、国家試験に関わる分野であり、資格取得には必要な科目という認識である。「関心のある科目である」と回答した学生は7.1%であった。 術演習(医師が担当)では、全学生が経験できるよう物品の準備や配置、適宜指導が受けられるよう配慮している。 ・実習を考慮し、知識・技術がケアの実施に結びつくようケアに関わる内容を講義に付け加えた。また、実習に活かせるよう実習で必須のテーマを抽出・提示し、レポート作成をするようにした。 ・昨年度の学生の授業評価より、「講義資料がカラーで重要項目などわかりやすかった」との意見があり、資料作成の工夫を継続して行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は72.8点であり、再試対象者は0名であった。標準レベルに達した学生は10名、理想レベルに達した学生は2名であった。科目が「周産期のハイリスク」ということで、疾患についての講義がほとんどであり、正常からの逸脱(異常)について説明・判断ができることを目標としているため講義内容の専門性は高い。母性看護学の知識を基盤に、並行して学ぶ助産の実践領域である専門科目「助産診断・ケア学Ⅰ～Ⅳ(妊娠期、分娩期、産褥期・、新生児・乳幼児)」と関連づけて学習することが必要である。 ・DPについては、知識理解・思考判断は、72%、技能表現は79%の達成度であった。 ・学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加する」に「1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は100%、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「1～6回」と回答した学生は87.5%であった。正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには予習・復習が必要であるが、このことも目標達成に反映されたと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では知識に関する平均値(3.9)が他の項目より高い。学生も一定の成績を収めており、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識理解・思考判断に対する達成度は標準レベルであった。本科目は、正常逸脱に関する判断を求められ、専門性の高い内容である。学習量の評価に関する学生の自由記述の内容「復習した」「雑誌を読んだ」、図書館の利用(学術データベースの検索と利用 75%)から、主体的な学習姿勢も見受けられた。 ③まとめ 以上より、到達度自己評価は知識・理解についての平均値が最も高く、技能・表現に関してはほぼ理想レベルに達していることより、内容に関しては妥当であると考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価の項目について平均値は3.8～4.0であった。合併症をもつ対象のケアについては事例を用いるなど工夫したが、今後も実践的な判断ができるよう症例 の選択と内容の工夫が必要である。また、正常領域の科目の授業も並行して行っているため、相互に関連付けながら学習していけるよう配慮する必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の実践領域である専門科目である。授業過程では、ケアに関しては事例を紹介し、課題を通して学習内容を再度まとめるようにした。 また、正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療につい て理解するためには日々の予習・復習が必要であり、学習量の取り組み方は常に必要かと思われる。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	古賀 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
女性の健康支援論	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目では、女性のライフサイクル各期における健康問題とその支援について学び、女性の支援者としての助産師の役割を学ぶことを目的としていることから、学習範囲も周産期・乳幼児期・学童期を除くすべての女性に対する助産師として役割を考える機会となることを意図し、今年度は専門科目ではあるが学期の初めにライフサイクルにおける特徴と支援を中心とした講義とディスカッションを集中して計画した。そのため、評価についてもディスカッションやレポートを重視することにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 ＊根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は79点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達した。さらに、7名が理想的レベル(概ね80点以上として作成)に達していた。 目的別にみると、知識理解に関しては77%、関心意欲に関しては100%であった。また、レポートに関しては75%、発表については100%であった。 学校生活に慣れる間もなく、課題に追われ自己学習を行う時間を確保できずにいたものもいたが、図書館やインターネットも活用した自己調査も踏まえて助産師の役割についても自己の意見が述べられており、全ての女性に対する助産師の役割を考える機会となり目標達成につながったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であり、健やかな女性のライフサイクル支援を主とする科目の一つである。ライフサイクル各期の女性に関する知識理解はもちろん思考判断をふまえたうえで、関心を持って自らの意見をまとめ他者に発信し、より具体的な助産師の役割を見出していくためには必須である。受講動機は「必須科目である」100%、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、到達度自己評価では平均点は3.5点以上であった。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	今年度は特に、短期間で集中的に行われたことから、学生からは時間の余裕がなかったという意見がでていた。しかし、最終的にはほぼ全員が意欲的に関心を持って目標に向かって取り組んでいたことから、講義内容は特に改善の必要はないと考える。それでも、学生が負担を感じないことのないように、学習の進め方については改善の必要性があると考えます。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	到達度自己評価では、すべての項目においてほぼ全員が「そうだと思う」と回答しており、目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であったが、学生負担なく課題に取り組み広い視野をもち助産師としての役割を理解できるように、講義の進め方については、今後も工夫していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合看護学	1	前期	選択	いいえ	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機を見てみると、「単位数を確保する」が50%と半数であり、「関心のある内容である」が40%、「教員にすすめられた」が30%であった。本科目は、選択科目であり、看護学領域を示す科目名になっているが、今後、助産診断・助産過程の展開を学習する上で基盤となる科目であり、再確認、再学習する必要性を説明し留意した。受講動機の回答の中には、「苦手分野だったので」と記述している学生がいた。 ・看護過程の展開として、婦人科疾患患者の症例を選択し、看護に関する基礎的知識と方法を再確認した。また、看護だけでなく助産領域に必要なコミュニケーション力、観察力を身につけるために演習も取り入れ、今後の助産学実習に活かせるよう計画した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお願いします。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	選択科目であり、11名の学生が受講している。 ・最終的な成績の平均値は82.9点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達し、その内理想的レベルに達した者は80%であった。 ・目標別にみると、知識・理解は85.5%、関心・意欲は79%の達成度であった。また、学生の到達度自己評価項目は、「知識を確認、修正したり新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことができた」が最も高くなっていることから、入学前に既習している内容であるが、再学習することで新たに得られた学びがあり、本科目の目標として一定の評価ができるかと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する支援科目であり、選択科目でもある。支援科目は、専門科目の幅広い理解につなげるための科目である。受講動機(学生の自由記述含む)や学習到達度の自己評価などより主体的な回答も得られたこと、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 目標別にみると、知識・理解に関する達成度が高かった(80%以上の理想レベル)。また、到達度自己評価においても知識・理解、関心・意欲の項目に関して概ね肯定的な回答であった。 ③まとめ 以上より、内容に関しては妥当であると考え。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学習の評価に関して、復習を全くしなかった学生はいなかったが、授業の課題以外に学習に取り組んでいないと回答した学生は100%であった。理由として「課題で精一杯だった」、「忙しかった」、「課題で充分だった」という意見であった。限られた期間の中で、課題レポート作成および発表が組み込まれていたためかと考えるが、他の教科との関連性や進度も考慮し、学習の時間をもてるように授業計画の工夫を検討する。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の実践領域の中の支援科目であり選択科目である。専門科目の理解を支援する科目である。専門科目である『助産過程演習』学ぶにあたって、既習学習である看護理論や看護過程展開についての知識や学習を再確認することは重要である。授業成績や授業評価アンケートより科目の本質は学べていると考えるが、学生の自由記述より「忙しい」「課題で精一杯」という回答があり、他の科目の授業の順序性、進度も加味し、授業計画を工夫する必要もある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	平田 健太郎

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・学生の受講動機をみると「必須科目である」100% (前年度も100%)であり、国家試験に関わる分野でかつ資格取得には必要な科目であると認識しているといえる。 ・講義内容は、科目の名称である母子の領域の留まらず、思春期・青年期から老年期まで各ライフステージの心理的变化や心理的・社会的課題について解説している。特に助産領域を学ぶ上で必要となる母子関係についての知識だけではなく父子関係についても言及し、親役割の発達過程についても学べるよう配慮している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績 (トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布 (標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は70点であった。再試対象者は0名であった。理想レベルに達した学生は4名であった。 ・学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は25%、「1回～3回」と答えた学生は69%、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は38%、「1回～3回」と答えた学生は56%いた。本科目は助産の理論領域分野であり、助産の実践領域の科目内容を理解するための基礎となるため予習・復習が必要であり、シラバス等に提示しているが「0回」と答えた学生の授業への取り組み方 (周知)が課題である。到達度自己評価をみてみると、8割以上の学生が「まあまあそうだと思う」、「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と回答していた。また、評価項目としては「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」が最も高く、この科目の本質をとらえている部分でもあり、課題は残るものの学びは得られていると考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は助産の理論領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では思考・判断に関する平均値 (3.6) が最も高かった。学生も一定の成績を収めており、内容的には妥当であると考え。 しかし、内容を理解するための事前の学習 (予習・復習) やレポート作成のための図書館の利用、学習量について課題がみられた。このことはレポート内容にも比例するため、課題提出に向けての取り組み努力が必要である。 以上より、学習量として予習・復習に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	・「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、約81%の学生が利用して いなかった。評価方法がレポートであり、レポートの作成に必要な文献の 検索を含め、図書館の利用方法について課題がみられた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の理論領域である。実践領域を理解するためにも予習・復習が必要であり、 学習量の取り組み方が課題である。図書館を利用するなど探求する意 欲、授業で得た知識をさらに深める行動、まとめる能力が課題であるとする。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。「関心のある内容である」が6.3%と低いことに関しては、助産別科での開講ということもあり、専門の科目ではないので、妥当な数値と評価できる。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。 ②栄養学科同様、スライド資料を作成し配布した。資料には板書を書き写すことのできるスペース等も設けた。座学だけではなく、調乳等の実習を講義の中に組み込むことで、母子の栄養学に少しでも興味を持ってもらうよう努力している。 ③学修準備性に関しては、約40%の学生が予習を一度もやってないと回答している、復習は90%が最低でも1回は行っていた。昨年度、助産別科の学生に対しても、予習課題や復習テストの導入を検討する必要があると考えていたが、全8回の実習を含めた講義回数では、テストを導入する時間はなく、また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習復習課題を出すことはしなかった。但し、助産別科で学ぶ間(修了後も)に母子の栄養に関する質問があればいつでも受け付けることにしている、今後もそのようにしていく。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果および実習時の課題から評価した。試験結果は16名の受講生中、A(秀)が56.3%、B(優)が25%と多く、C(良)12.5%であり、今年度は秀の割合が多かった。D(可)も不可の学生も0名であった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、80%以上に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、うち理想的レベルが8割を超えていることは、結果として本科目受講に対する意欲の高さのうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、40%の学生が予習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生がほとんど居なかった。特に図書館の利用に関しては、指定図書の紹介など講義でおこなっているものの、書籍を使つての課題等は出題しておらず、図書館活用も視野に入れた課題設定をしていく必要がある。ただし、助産別科生に対し、栄養学分野のみでの課題設定は厳しいことも考えられるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると協議を必要とする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、40%の学生が予習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、上記記載のように(目標達成状況)、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている(例:長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等)。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は81%と高かった。ただしシラバスを参考にした学生のうち「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答している学生は少ないため、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなければならないため、今後は、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPIは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。
------------------------------	---

リフレクションカード 2017年度前期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、助産別科の学生すべてが受講する。そのため、受講動機を「必修科目である」と答えていた学生が100%であった。 妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており(特に海外において)、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。 昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は81.6(±7.4)点であった。成績分布別にみると、90点以上が13%、89～80点が69%、79～70点が13%、69～60点が5%であった。全員が標準的レベルに達しており、82%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が7%、「わりにそう思う」が53%、「まあまあそうだと思う」が40%とすべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7)。 「知識・理解(DP1)」に関する学生の到達度自己評価(質問項目2と3)についても、「かなりそうだと思う」が7～20%、「わりにそう思う」が47～53%、「まあまあそうだと思う」が33～40%と、すべての学生が肯定的に捉えていた(平均値3.7～3.9)。 その他、「思考・判断(DP2)」、「意欲・関心(DP3)」、「技能・表現(DP5)」、「態度(DP4)」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値は3.3～3.5であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今回は、該当するDPとしては、「知識・理解(DP1)」のみとなっていたが、この授業では妊婦体験の中で様々なスポーツやマタニティビクスを経験させており、「技能・表現(DP5)」もまた含める必要がある。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示ください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が4.1～4.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。しかしながら、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っていなかった学生の割合は約23%であり、昨年度(約57%)より35%少なくなった。このことから、今年度は学生の学習意欲を少しは高めることができたと思う 一方、授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生の割合は約73%であり、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	目標は概ね達成できたと思う。 今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。
------------------------------	--